



# ～13人のYouth記者～



- 2... 見えない“カベ”はどこに  
(おもちゃ図書館あそびむし)
- 4... さんさん広場  
(新宿区社会福祉協議会 さんさん広場)
- 6... 互いに知って 共に変わる  
(みんなのおうち)
- 8... 日本赤十字社医療センター附属乳児院
- 8... アフターケア相談所 ゆずりは
- 9... 私たちの活動日記
- 10... 高校生の皆さん！  
「福祉」についてどう思っていますか？！  
(高校生アンケート)
- 12... Youth 記者座談会

高校1年生から3年生までの13名のYouth記者が作成した広報誌です。  
ランブライト  
タイトル「点灯者」は、サン=テグジュペリ「星の王子さま」にでてくる「点灯夫の星」に由来します。  
私たちは、まだ高校生で1人前には程遠く、本当に小さいものではありませんが、  
この広報誌を手にとり下された方々の灯りになれたらという思いから名づけました。



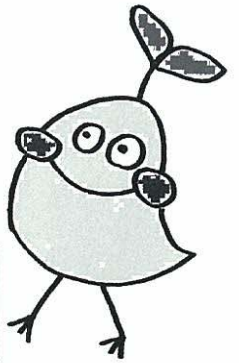
Youth 記者キャラクター  
ゆーすけくん

# 見えない“カベ”はどこに

## おもちゃ図書館とは何だ！

『障がい』とひとへんにするのではなく、困っている人がいたら手を差し伸べてあげる。健常も障がいも、カベは無い。その人に合わせた対応をしてあげられたらよいなと思わせる場所でした。(葉)

## おもちゃ図書館に行ったよ！



おもちゃ図書館とは、障がいのある子どもたちも、障がいのない子どもたちも一緒に遊べるステキな場所です。そこにいた子どもたちは、みんな生き生きと顔を輝かせて遊んでいました。本当に温かくふわっとした雰囲気です。それは『障がい』という私がつけていた重たいイメージを覆すものでした。またここを訪ねたい、そう思いました。(めぐみ)

## 利用している中高生にインタビューしました！

「ここは楽しいですか？」と聞いたところ、皆笑顔で「楽しい！」と答えてくれました。中高生には、皆で遊べるカードゲームが人気で、皆で集まっておしゃべりをするのも1つの楽しみだそうです。「おもちゃ図書館に来ることで色々な人に出会える。同じ障がいを持つ人は分かり合える」。おもちゃ図書館は、おもちゃで遊ぶだけでなく、子どもたちの憩いの場にもなっているようでした。(美波)

## 利用している子どものお母さんにインタビューしました！

自閉症のお子さんと利用している方にお話を聞きました。待合の時間をつぶすために利用し始めたそうです。「この施設の長所は何ですか？」と尋ねると、「子どもが見慣れないおもちゃと触れ合うことができることと、子どもも大人も様々な障がいを持った方と出会えることです」とおっしゃっていました。同じ障がいを持った子どもを持つ親同士のつながりを育むことができる、この空間は、子どもだけでなく、大人の癒しの空間でもあるのかもしれない。(汐里)

## 子どもたちの喜ぶ顔を見るのが幸せ

### おもちゃドクター



新藤さんはお仕事を定年退職される以前から、おもちゃドクターのような仕事を目指していたそうで、子どもたちの喜ぶ顔を見るのが幸せだとおっしゃっていました。また、子どもだけでなく、大人が思い出のつまった愛着のあるおもちゃを持って来られたこともあり、おもちゃが直ると涙を流して喜ばれたそうです。幸せを与えるってなんて素晴らしいのだろうと私まで温かい気持ちになりました。(めぐみ)

## おもちゃ図書館ってどこにあるの？

おもちゃ図書館は全国にあり、東京では36か所あります。今回私たちが取材したおもちゃ図書館「あそびむし」があるのは、板橋区にある「心身障害児総合医療療育センター（以下、センター）」の中です。

センターは、心身に障がいを持った子どものための医療療育相談機関であり、整肢療護園やむらさき愛育園のような入所施設のほかに外来も行っています。整肢療護園では病棟ごとに役割が分かれており、手術を目的とした短期入園から長期的な生活までのサポートをしています。むらさき愛育園では日々いろいろなレクリエーションなどを行っています。リハビリテーションは理学療法科（PT）・作業療法科（OT）・言語聴覚科（ST）があります。言語聴覚科という名前は聞きなれないかもしれませんが、主にコミュニケーションのリハビリを行っています。

センターには緑があふれ、散歩をしたら気持ちいいだろうなと思えました。(葉)



## あそびむし代表者 安達さんのお話

安達さんは11年前におもちゃ図書館に参加しはじめました。子どもたちとふれあうのが大好きだそうで、お話を伺っている私たちにもそれが伝わってきました。

そんな安達さんは、おもちゃ図書館に来られた保護者の方や子どもたちに喜んでもらえた時が一番やりがいを感じるとおっしゃっていました。(めぐみ)

おもちゃ図書館

## あそびむし

あそびむしは、地域に広く開放されているおもちゃ図書館です。ここは、障がいのある子どもたちがおもちゃで楽しく遊ぶことを通して、新しい発見と好奇心によりその可能性を伸ばすことを願って心身障害児総合医療療育センター内に1984年に設立されました。

## ボランティアさんのお話

### ★大吉さんのお話

退職後、「あそびむし」のボランティアをはじめました。ボランティアをするときの注意は、「**危ないときにだけ手を貸す**」ことと「**怪我が無いように見守る**」ことだそうです。また、「なにかしてあげようと強い使命感を持ってしまうと長く続かないです。そばにいてただ見守ることが大切です」ともおっしゃっていました。「あそびむしに行くからリハビリがんばる」という子どもたちの話を聞くと、やってよかったなと実感するそうです。(菜)

### ★杉山さんのお話

地域の情報誌でこの活動を知り、「何かしたい」という思いから参加を決めたそうです。杉山さんはこの活動を通し、障がいのある人に対する態度が変わったといいます。「今では、この活動が生きがいになっている。若さの秘訣です」と笑顔で語ってくださいました。(美波)



## 中学生ボランティアさんのお話

学校の夏休みの宿題がきっかけで、このボランティアをはじめた粟生さん。このボランティアを見つけたのは、住んでいる板橋区のホームページだといいます。多くのボランティアの中からここを選んだのは、「障がいのある子どもと接する機会は貴重だ」と思ったからだそう。「またここに来たいと思いますか?」という私たちの質問に、笑顔で「はい!」と答えてくれました。(汐里)

「私たちは見守っているだけです」私は、この言葉が1番印象に残っています。障がい者といっても何かをしてあげなくてはならないわけではなく、ただ**友達に何かを貸すような気持ちで、手を貸したり、物を取ってあげたりする**。当たり前のことだけれど、意外と忘れてしまいがちです。今度はボランティアとして、おもちゃ図書館に訪れたいと思いました。(汐里)

## あなたにも出来る! ボランティア

中高生であってもできるボランティアは意外とたくさんあります! 皆さんも一度地域のHPを見てみてはいかがでしょうか?

●●区\* ボランティアセンター

検索

\*自分の関心のある区市町村名を入れて下さい。

手を貸すのは危険なときだけ



次は  
さんさん  
広場だよー！



### 迷うこともたくさんある

◆大学院生ボランティア 筒井さん

筒井さんがこの活動をはじめたきっかけは震災だったそうです。「ボランティア」という言葉のイメージに縛られてなかなか行動に移せなかった人たちが、関心を持つきっかけになればという思いで続けてきたといいます。

やはりボランティアに関わる人は完璧なのか...と思っていると、「迷うこともたくさんありますよ」という筒井さん。「地域の繋がりが薄れつつある今、人との関わり距離を置きたくない人の気持ちもすごく分かるんです。でも、もし少しでもボランティアに興味があるなら、やりやすい形でまず行動してみたいですね。イメージで敬遠してしまうのはもったいない。食わず嫌いではありませんが、やってみたら意外とおもしろいかもかもしれません」避難者の方もそうでない方も、老若男女が楽しめる広場にしようという日々奮闘されています。(理恵子)



### さんさん広場とは...

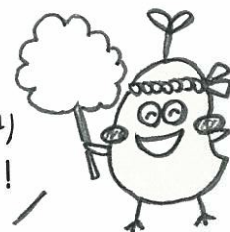
東日本大震災により新宿区内に避難してきた方をはじめとする地域の方々が集まるスペース「さんさん広場」。主に子どもたちの学習や遊びを、関東近辺の7つの大学の学生ボランティアがサポートしています。



「遊びと勉強を両立できる場所」。  
こんな場所が僕の近所にも  
あれば良かったのに...。



さんさん祭り  
楽しいよー！



“ボランティア”という言葉に対する、  
堅いイメージがなくなりました。



みんなで一緒に楽しむ素敵なお祭り！  
私は、8月25日に新宿区百人町地域で開催された「さんさん祭り」にボランティアとして参加しました。東日本大震災における避難者の方と、地域の住民の皆さんの交流のために大学生の団体が企画した地域のお祭りです。  
ボランティア自体初めてだったので不安もありましたが、周りの大学生が優しくてユーマスな方ばかりで楽しかったです。地域の公園で行われたお祭りなので、誰でも参加しやすい環境で、実際にお年寄りから赤ちゃんまで、老若男女問わずたくさんの方が来て和やかな雰囲気でした。新宿区内に避難してきている方も地域の人も分け隔てなく笑顔でお話していました。避難してきている方を楽しませるというだけでなく「みんなで一緒に楽しむ」というかたちとても素敵なお祭りでした。(英利果)

ポップコーン売り場のお手伝いをしました

(写真：春花)

## 『偽善』と言われるのが しらい

◆大学院生ボランティア 市川さん

「親から『自立していい学生にボランティアができるのか』と言われたり、周りから『ボランティアなんて偽善だ』と言われるりするのがつらい」という市川さんのお話が印象に残っています。私自身にも経験があることなので深く共感しました。

また、東日本大震災の被災体験の内容の深刻さにひるんでしまうことがあるとおっしゃっていました。私も、実際に広場に来ていた震災を経験した方にお話を聞かせていただきましたが、押し寄せた津波を「黒い壁が迫ってくる」と表現するなど、メディアで聞くのとは比べ物にならないくらい言葉の重みを感じました。

市川さんは「これからどのように広場の運営を継続していくのか悩む時もある」とおっしゃっていましたが、私は是非続けて欲しいと感じました。(琴絵)



## 誰にでも参加できる場所

◆新宿区社会福祉協議会 中山さん

新宿区社会福祉協議会(社協)では、町会や企業と学生の接点を作るコーディネートを行い、実際は大学生が中心となり運営しています。

中山さんのお話を聞いて「世代間交流」という言葉が印象に残りました。新宿区内には50〜60のサロンがありますが、「中山さん広場」のように多くの世代の人々が集まるものはごく少数だそうです。「世代間交流」と言葉で言うのは簡単ですが、実行に移す力とかエネルギーは社協だけではできません。大学生はすごいです」と中山さんはいいます。

もともと震災前に、地域住民の要望で一度だけ開かれた大学生が子どもの学習支援をする活動が前身ということもあり、避難されてきた方々だけでなく、地域の方も参加できる場所を目指しているそうです。他の地域やサロン活動ではあまりみられないように、中山さん広場の大きな特徴となっています。

中山さんは「中山さん広場に来ることを楽しみにしている人が多いと地域の方から聞いた時は、とても嬉しかった」といいます。(颯太)



## 私たちにできること



やってみよう!

やりやすい形でもまずは行動する

ボランティアに年齢制限はないし、高校生だからダメだということはありません。確かにある面から見れば、ボランティアは偽善に見えるのかもしれないが、たとえ偽善でもそれが人の役に立つことなら素晴らしいことだと思います。ボランティアに必要なのは少しの勇気であり、その勇気のきっかけは案外身近なところにあると思うので、まずはそのきっかけを探してみたいです。(琴絵)

福祉というのはバリアフリーの建物などで表現するものだと思っていましたが、意識や見方など心に生きるものなのだと気付かされました。

福祉に携わる人は私とは何か根本的に違うのかなと思っていましたが、迷ったり、壁にぶつかりながらここまで来たというお話を聞いて、いい意味でとても親近感がわきました。だからこそ皆さんの言葉をとても素直に受け取ることができました。今回の取材まで、ボランティアをすることは大きな決断をすることで、覚悟を決めてやるものだと思っていましたが、「やりやすい形でもまずは行動してみたい」という言葉で、自分のスタイルでもっと気軽にできるものだと気づかされました。やらずに後悔するのではなく、はじめの一步を踏み出してみたいです！

(理恵子)

# 共に変わる

안녕하세요  
(韓国語)

Magandang  
Magandang  
ハポン ポ  
hapon po  
(タガログ語)

次はみんなの  
おうちだよ



## みんなのおうちとは・・・

「みんなのおうち」は、外国にルーツがある子どもたちの手助けをするNPO法人です。活動の一環として子どもたちのための学習教室を開催しています。

週5日開催されている学習教室では、ボランティアの方が日本語と、英語・国語・数学・社会・理科の5教科を子どもたちに教えています。私たちコース記者は2回に分けて「みんなのおうち」事務局にうかがい、1回目はダンスワークショップに参加し、2回目は理事の小林さんにお話をうかがった後に勉強会を見学しました。

### ■「外国にルーツがある子ども」って？

親が仕事を求めて来日した場合に、親と一緒に日本に来た子ども、親の入国後に日本で生まれた子ども、親の仕事が落ち着いた後に外国から呼び寄せた子どもなどをさします。1人ひとり違う事情があるため、生まれや国籍だけでは日本語指導やサポートが必要かどうか判断できなくなっています。

例えば外国籍の両親を持つけれども日本で生まれ育った子どもの場合、小さい頃に親から日本語を学んでいないため語彙が少なく、中学生になってから日本語で苦労することがあります。学校の勉強で苦労するのは努力不足ではなく語彙不足が原因だと本人も周囲の人も気づかず、「どうして自分は勉強ができないのだろう」と悩みを抱えるケースもあります。こういう場合、周りからみても悩みの原因は分かりません。日本生まれ日本育ちだと、日本語は出来て当たり前だと思われてしまうからです。「みんなのおうち」では、こういった子どもたち1人ひとりによりそった活動をしています。

### 東京に住む外国人

406,096人

1位	新宿区	33,568人
2位	江戸川区	24,380人
3位	足立区	23,059人

### 東京都の今

#### 新宿区に住む外国人(国籍別)

33,568人

韓国・朝鮮	12,567人
中国	12,473人
ミャンマー	1,153人など

(参考資料:東京都総務局 区市町村別主要10か国外国人登録人口(平成24年1月1日現在))



こんにちは  
(日本語)

## 日本の義務教育が受けられない!?

東京都内の中学校に通う外国籍の子どもが高校受験をする場合、来日3年以内であれば在京外国人生徒の入学枠<sup>※1</sup>があります。しかし、来日して3年以上の場合、他の日本国籍の生徒と同じ一般枠しかありません。都内の中学校に在籍する外国籍の生徒が約2千9百人<sup>※2</sup>いるのに対して、在京外国人生徒の入学枠は約50人分しかありません。公立高校の授業料が無償化された今、多くの人が受ける高等教育ですが、外国にルーツがある子どもの場合、高校入試が関門として立ちほだかります。

法律の面でも壁があります。日本国憲法では、「国民」つまり日本国籍をもつ子どもは「教育を受ける権利」があり、保護者は子どもに「教育を受けさせる義務」があると書いてあります。しかし、外国籍の子どもは「権利」<sup>※3</sup>は保障されていますが、「義務」については定めがありません。そのため、外国籍の子どもが公立の小中学校へ通うには申請の手続きが必要です。将来、高校受験をするためには義務教育や日本語の勉強は重要です。しかし、保護者が言葉や手続き方法が分からず申請をしないと、義務教育が受けられないという状況になりかねません。私たちが普段当たり前のよう受けている教育のシステムには、外国籍の子どもという立場から見ると違った面があります。

## 「ハーフ」ではなく「ダブル」

「みんなのおうち」では、勉強以外にも文化や色々な専門業を学ぶ場があります。毎回プロの方をお呼びし、写真やダンスなどのワークショップが設けられています。今回は、10月8日の大久保パレードに向け、ダンス(ヒップホップ)のワークショップがあったので参加してきました。慣れない場所で辛い思いをしながら学校に通っていた子どもたちが、同じような状況の子と集まることで、こんなにも勇気付けられるんだなということ、集まっていた子たちの笑っている顔を見て思いました。

みんなのおうちでは、こういう場を通して日本と自分のルーツがある国の2つの文化を共有しています。そして、自分の得意分野では積極的に活躍の場を広げていきたいと願いを含め、両親がお互い違う国籍を持つ子どもに対して「ハーフ」ではなく「ダブル」という言葉を使っています。



※1 在京外国人生徒応募資格…15歳以上の外国籍の者で、保護者とともに都内に住所を有する者、又は入学日までに住所を有することが確実な者のうち、次の①、②、③のいずれかに該当していること。  
①外国において、学校教育における9年の課程を修了する見込みの者又は既に修了した者、②日本国内において、外国人学校の教育により日本の9年の義務教育相当の教育を修了する見込みの者、又は既に修了した者、③日本国内の中学校、又はこれに準ずる学校(学校教育法第47条に規定)を卒業する見込みの者、又は既に卒業した者で、入国後の在日期間が入学日現在、原則として3年以内の者  
※2 東京都総務局統計部 学校基本調査(平成24年度)より  
※3 「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約(A規約)」や「児童の権利に関する条約」において規定



# 互いに知って

ハロー  
Hello  
(英語)

ニイハオ  
你好  
(中国語)

## 「子どもの力」で大人を変えていく

### ■ボランティアについて

「みんなのおうち」のボランティアになる唯一のハードル、それは子どもが好きですか?ということだけです。このハードルの低さには理由があります。

### ■ボランティアは変わっていく

ボランティアに来る方の中には、最初は「ボランティアをしてあげている」という上から目線の人もいますが、ボランティアをするうちにだんだんと変わっていきます。それは、偏見がなくなるからです。小林さんも活動をはじめた当初、自分では偏見がないつもりだったけれど、活動をしているうちに「あれ?私って実は偏見を持っていたのかしら?」と思うことがあったそうです。

ボランティアを通じて、自分の偏見がなくなる、変わる経験をしてほしいから、ボランティアをするハードルをとて低くしているそうです。「知ると変わる」。小林さんも、日本語が出来なかったフィリピンの子について知るまで、同じ新宿区で子育てをしていたのにこんな問題があると思わなかったそうです。



勉強会を行っている教室にて

### ■発信

「まずは知ることが大事。その次にやることは、『伝える』こと。これはこの問題を知った人間の義務です」。小林さん自身、外部からの取材を全く断っていません。

「高校生は、なんでも実際に見てみて、できると思ったことをするのがいい」と小林さんはおっしゃっていました。

### 格言

最終的には  
この教室をなくすのが  
目標です。

→外国にルーツのある子どもも、当たり前のこととしてサポートを受けながら日本の教育を受けられるようになって欲しい。

ナマステ  
नमस्ते  
(ヒンディー語)

## 私たちが思ったこと

### ■教育

私たちは普段、当たり前のように教育を受けていて、当たり前のように日本語を話しています。今回、日本の教育システムの中で苦勞している子どもたちについて知り、衝撃を受けると同時に、当たり前のことを当たり前だと思っただけなのだと感じました。

### ■偏見

知らず知らずのうちに偏見は私たちのの中にしみ込んでしまっています。「自分には偏見がない」と言うことは簡単ですし、「自分には偏見がある、だからそれをなくしたい」と言うことも簡単です。ですが、実際に小林さんのように素敵な笑顔で「私は今は偏見がないと思う」と言うのは大変難しいことだと思います。他国の人と交流し、社会に存在する問題を知り、自国の歴史を知ること、これが偏見をなくすために今できることではないかと私たちは考えました。

「知れば変わる」という小林さんのお話を聞いて、私たちは何かを知ることの持つ力を垣間見ることができた気がしました。偏見をなくすことだけではありません。ユース記者も活動や取材を通して様々なことを見聞きして変わっています。この取材を通じ私たちが新たな変化のきっかけになりたい、と思えました。

サワディーカー  
สวัสดีค่ะ  
(タイ語)

(取材・記事) 梨乃 莉紗子 芽衣子 百詠子



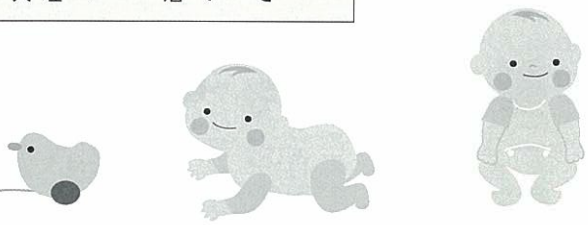
質問してみました

日本赤十字社医療センター  
付属乳児院

「社会的養護」という言葉を聞いたことはありますか？  
様々な事情で家庭では生活できない子どもを、公的な責任として、社会的に養い、その成長を助けることです。

Q 乳児院は何が所ありますか？  
A 都内には10か所あります。  
Q 何人くらいの子どもが生活しているのですか？  
A 日赤乳児院の定員は70名です。月平均60名前後の子どもが生活しています。  
Q どんな人が働いているのですか？  
A 看護師、保育士、栄養士、調理師、家庭支援専門相談員、臨床心理士、事務など、様々な職種の人が働いています。  
Q どうやって利用するのですか？  
A 家族の方が希望の施設に直接預けることはできません。住んでいる地域にある児童相談所に相談します。入所も退所も面会の許可も児童相談所が判断します。

乳児院は、いろいろな事情により、家庭での養育が難しい主に0〜3、4歳の子どもが生活している施設です。  
取材をしてみて、親と一緒に過ごさないうつこは、買い物に行ったり、公園に行ったり、電車に乗ったり、何気なく過ごす日常が普通じゃないのだなと改めて感じました。  
取材では、日本赤十字社医療センター付属乳児院事務長の吉ヶ崎さん、看護師長の臼井さんにインタビューをしました。(梨乃)



乳児院って、どんなところがな？



「どんなことに気をつけていますか？」  
「みんな生まれてきて良かったんだよ」と伝えられるようにしています。安全に、病気や怪我をしないように、その子の良い状態を保ち、安心してのびのびでできるようにしたいと思います。  
「これから子育てをする若い人に伝えたいことはありますか？」  
「自分自身を大切にしたい」ということです。そうすれば他人も大切にできます。そして、もしあなたが子育てで困ったことや悩んでいることがあったら、一人で悩まず、身近な人や行政に相談してみてください。地域の『子育て支援センター』を利用するのも良いでしょう。大人は色々な知恵を持っています。SOSを出すことは恥ずかしいことではありません。行政のサービスを上手に活用して自分の助けにして下さい。乳児院という施設があるというのを知っておいて欲しいと思います。」

アフターケア相談所  
ゆずりは



「ゆずりは」は児童養護施設や自立援助ホーム等の退所者のアフターケアを目的として平成23年に開所した相談所で、生活支援・住居支援・就労支援を行っています。相談内容は、家賃滞納から恋人のDVについてや自己破産の手續ぎまで、様々です。  
相談者の都合のいい場所まで会いに行き、相談を受け、公的な支援などを紹介するという活動を行っています。今回は、相談員の高橋さんに取材しました。(葉)

施設を出た後、困ったことがあっても家族に頼ることができなかったり、相談できる人が身近にいなかったり、どうしていいかわからず困ってしまう人も多くいます。そこで、高橋さんは「ゆずりは」という相談所を作りました。

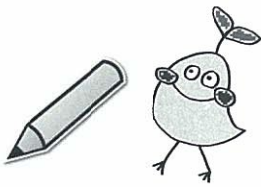
高橋さんは、このような施設を開いた理由に「必要に迫られて」という言葉を強調されていました。社会的養護のもとで育ち、巣立つていく子どもたちが幸せに過ごして行くことの出来ない現状をどうにかしたいという思いからなんです。1回や2回だけで済む相談だけでなく継続して長期的な支援が必要だといいます。

しかし、国からの補助金は出ず、法人(\*)からのお金で相談所を動かしているというのが現状です。支援という困っている人だけを対象に考えてしまいがちです。困っている人を国のお金で助けるということは、その人のためになるだけでなく、社会全体をより良いものに、社会全体に還元していくもの。皆にとっても良いことだということを知ってもらい、そういう問題を「社会」が支えていくようになって欲しいと高橋さんは強く、語ってくださいました。(美波)

\*社会福祉法人 子供の家







# 私たちの活動日記

活動内容はブログでも公開しています。  
<http://blog.canpan.info/youth-kisya/>

\* \* \* \* \*

ミーティングをやるたびに思いますが、多種多様な意見が出て、自分とはちがう考え方や意見もたくさんあるので世界が広がってとても楽しいです (^o^)/

話し合いの内容はまじめなのに、楽しく、発言しやすい環境なのがユースの魅力ですね!!

ミーティングを重ねるごとに、どんどん積極的になっていく自分がある気がします (笑)

\* \* \* \* \*



\* \* \* \* \*

今日に限らず、ミーティングに来ると「三人寄れば文殊の知恵」ということわざを思い出します

同じことに問題意識を持っていても、個人個人でそこへのアプローチの仕方が違うんです

だから、語り合うことによって、色々な視点から見つめなおすことができる。そうすると、自然と自分の意見もより充実したものになっていくんです \*^^\*

ユース記者という発信する立場に立つ高校生として、多様な視点から物事を見る能力をこれからも磨いていきたいと思えます。

\* \* \* \* \*

\* \* \* \* \*

みんなのおうちの勉強会で、インドのヒンディー語を少し教えてもらいました。

\* \* \* \* \*



## 平成24年度 Youth記者の活動

### 取材先

- P 2 ○あそびむし  
○心身障害児総合医療療育センター  
東京都板橋区小茂根 1-1-10  
電話：03-3974-2146 (代)
- P 4 ○さんさん広場  
○新宿区社会福祉協議会  
東京都新宿区高田馬場 1-17-20
- P 6 ○みんなのおうち  
<http://minnanoouchi.com/>
- P 8 ○日本赤十字社医療センター附属乳児院  
東京都渋谷区広尾 4-1-1  
電話：03-3400-0477  
○アフターケア相談所 ゆずりは  
東京都小金井市中町 3-10-10-102  
電話：042-315-6738



お忙しい中、取材にご協力いただきありがとうございました。

### 活動記録

日程	活動内容
4月22日(日)	ミーティング①
5月13日(日)	ミーティング②
6月3日(日)	ミーティング③
7月16日(月・祝)	ミーティング④
8月4日(土)	取材 (シンポジウム)
8月8日(水)	取材 (おもちゃ図書館)
8月11日(土)、18日(土)、25日(土)	取材 (さんさん広場、さんさん祭り)
8月16日(水)、21日(火)	取材 (みんなのおうち)
8月17日(木)	取材 (ゆずりは)
8月27日(月)	ミーティング⑤
8月28日(火)	取材 (乳児院)
9月17日(月・祝)	ミーティング⑥
10月28日(日)	ミーティング⑦
11月18日(日)	ミーティング⑧
12月26日(水)	ミーティング⑨

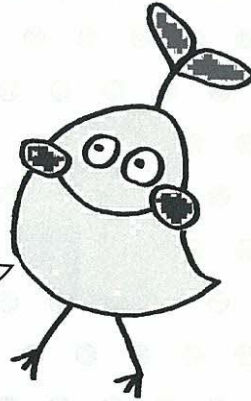
都内の高校生  
56人に  
聞きました!

# 高校生の皆さん!

## 「福祉」についてどう思っていますか?!



はじめまして、こんにちは、  
私たちユース記者は、  
若い世代の方々に  
福祉に興味を持ってもらうために、  
高校生の立場から情報を発信する  
活動をしています。  
今回は、高校生が福祉や  
ボランティアについて  
どう思っているかを知るために、  
私たちユース記者の学校で、  
同級生や部活の友達に  
「高校生アンケート」を実施しました。  
私たち高校生が、  
普段どのようなことを感じているか、  
皆さんにもお伝えします!



Youth 記者キャラクター  
ゆーすけくん

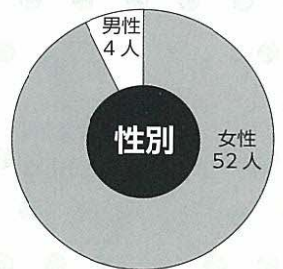
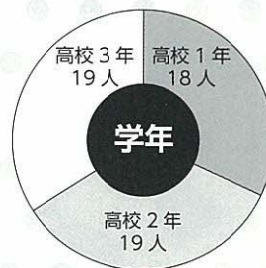
### Q3

「福祉」に興味を持つようになった  
きっかけは?

- ・震災の報道で強く感じるようになった(高3)
- ・高齢社会への突入により、介護などが人事ではな  
なった(高3)
- ・小学生から老人ホームでボランティアをしていた  
から(高2)
- ・部活の文化祭発表で手話をやった(高2)
- ・おじいちゃんが認知症になったことがキッカケで  
(高2)
- ・将来の夢が福祉に関係することだから(高1)
- ・知人が福祉関係の仕事をしている(高1)
- ・おばあちゃんの介護(高2)
- ・小学生の時、学校に車椅子バスケの人が来て、その  
ひとがすごかったから(高3)
- ・弟が障がい者だから(高3)
- ・おばあちゃんと一緒に住んでいる。年を重ねる度に  
弱っていくおばあちゃんの身体と精神を見ていく  
うちに、自分にも福祉的な面で何か出来ないかと考  
えたから(高3)

### Q1

あなたの学年と性別を  
教えてください。



たくさんの回答  
ありがとうございました。

### Q4

「福祉」に関する活動をしたことは  
ありますか?

はい  
28人

いいえ  
28人



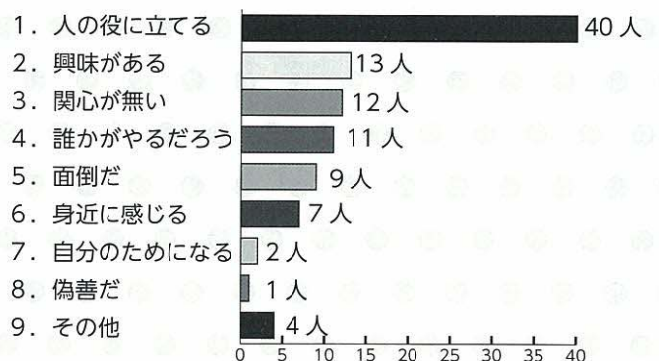
活動をしたことがある  
人が半数もいるね。

ほんとだー。



### Q2

「福祉」と聞いて感じることは?  
(複数回答)

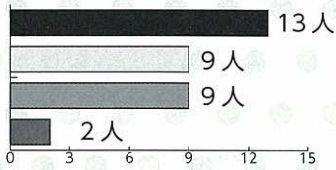


## 「福祉」に関する活動をしたことが【ある】人

### Q7

活動のきっかけはどのようなものですか？ (複数回答)

1. 授業の一環で
2. 自分で探して
3. 人に勧められて
4. クラブや部活で

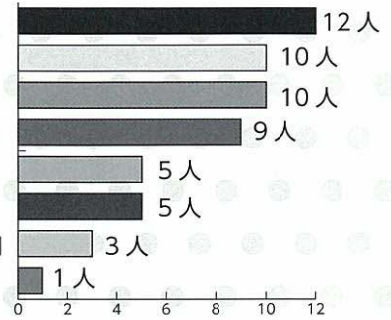


自分で探した子もいるんだわ。

### Q5

どのような活動をしたことがありますか？ (複数回答)

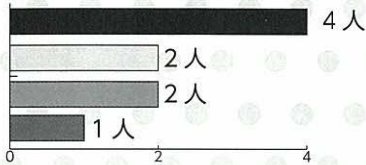
1. 障がい者との交流
2. お年寄りとの交流
3. 地域清掃
4. 子どもと遊ぶ
5. 募金活動
6. 被災地関連
7. イベントなどへの参加
8. その他



### Q8

(人に勧められて活動した方) 誰に勧められましたか？

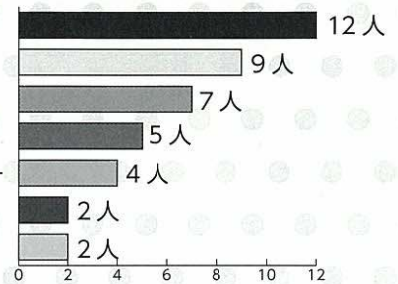
1. 親/親戚
2. 先生
3. 友人/先輩
4. その他



### Q6

どこで活動の情報を手に入れますか？ (複数回答)

1. 学校
2. 家族・親戚
3. 地域の情報誌
4. インターネット
5. ボランティアセンター
6. 友人・先輩
7. その他



## 「福祉」に関する活動をしたことが【ない】人

### Q10

今後、学校や地域などで「福祉」に関する活動の情報が提供されたら参加しますか？

はい 10人    いいえ 6人    どちらともいえない 12人

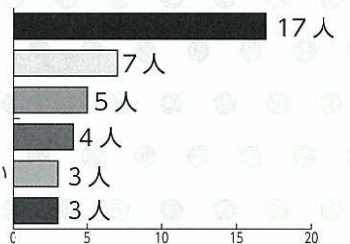


ボランティアに参加したくても、参加方法やどこに申し込めばいいのかわからないという友人が多いです。

### Q9

「福祉」に関する活動をやってみたいですか？ (複数回答)

1. 機会があればやりたい
2. 強制されたらやる
3. やりたいが時間がない
4. とてもやりたい
5. やりたいが情報が無い、方法がわからない
6. やりたいとは思わない



## 高校生が「福祉」について考えていること、興味関心があること

1. 震災を通じて、ボランティアにとても興味を感じました！ (高2)
2. 子どもと遊ぶのはやりたい (高1)
3. ・・・他多数



子どもと遊ぶのはやってみたい！

- 大切だけど、あまりやる人がいない (高1)
- 色々な出会いがあると思います (高2)
- 福祉はなくてはならないもの。福祉をする人がいないと生活に困る人が増える (高1)
- 母親がそういった職業についているが正直自分にはできないことだと思っがやらなければならないことだと思 (高2)
- 被災地の支援。1年半以上経った今だからこそ必要なことがあるはず (高3)
- まじめそうないメージがあってもやってみるとすごく楽しいし、思い出に残ります！被災地に行くと、高校生でもできるような活動をしてほしい！ (高1)
- 「えらい人がやること」というイメージを払拭しないと、規模はなかなか広がらないと思います。そのためにも学校などでもっと情報が身近に得られるといいと思います (高3)
- 日本はまだまだ福祉に関する課題を数多く抱えています。これから未来を担う私たちがきちんと考え、対処していく必要があると思います (高2)
- ボランティアなどは結局は自己満足で偽善だという考え方がありますが、人の役に立っている限りは、動機が不純でも福祉に貢献できていると言えるのではないかと思います (高3)
- ボランティアに参加したくても、参加方法やどこに申し込めばいいのかわからないと言っている友人が多いです (高3)
- 具体的にどのようなボランティアが必要とされているか、私たちの年代に出来るのかわかると、より積極的に行動出来るかなと思います (高3)
- 福祉をきっかけに人と関わったら良いと思う (高3)
- 授業の一環としてボランティアをしてみたい (高1)
- 介護をして、お年寄りとのコミュニケーションをとる体験を1度やってみたい (高2)
- 老人の話相手。年上からいろいろ学びたい (高2)
- 盲導犬とのふれあいや子どもと遊ぶのはやってみたい (高1)
- 手話や点字を覚えてみたい。



# 発信！ 私たちにできること

Youth 記者広報誌のタイトル案 → 点灯の星・First Step～私達が見たもの～・Discovery～私達の未来～・私達は見た!!・福祉広報 Youth 記者・Bridge to the future・in my opinion・Since Our Youth (タイトルを考える際に広報にあがった言葉です)



に「高校生アンケート」も行了ましたね。汐里 福祉という言葉には「堅いイメージ」があるのかな。

皆さんがYouth記者に参加したきっかけは？  
汐里 福祉に興味があって、活動できる場所を探していたけど高校生ができることがなかなかなくて...。同年代の人が活動していいなと思った。

栗 昨年の広報誌を読んで。福祉はよくわからなかったけど、意外と自分と近いものなんだなって思った。めぐみ 自分の考えを発信できるところがいいなと思った。  
梨乃 先生から紹介があって、是非やりたいと思った。  
琴絵 友達から記者募集のことを聞いてやってみたいと思った。  
楓太 東日本大震災のボランティアで充実感を味わった。あり余る体力を部活だけじゃなくて他の活動にも費やしたいと思って(笑)。  
莉紗子 視野を広げたくて。  
英利果 記者や雑誌の編集に興味があったから。震災後に少し福祉に興味を持つようになった。

芽衣子 昨年から興味を持っていて。高校生になったから参加してみたかった。  
美波 学校のボランティア部で紹介されて参加したいと思った。  
百詠子 地域の活動ができたらしいなと思ってた。高3だけど、勉強だけじゃない年にしたいと思って。春花 記事の編集を通してボランティアに関わることができるから。色んな人と意見交換もしてみたくて。



理恵子 福祉について興味があったのと、同世代の人に楽しくわかりやすく伝えたいと思った。  
同世代の高校生読者に向けて、色々な「きっかけ」を紹介しよう!と取材先を決めましたね。取材先ではどんな交流がありましたか？  
めぐみ おもちゃ図書館では、子どもたちと一緒に遊んだ。自分の年齢が子どもたちより高いから、最初は論に入りづらく感じた。  
栗 何をしたら良いのか戸惑いはあった。障がいがあるけど、違う!と思いがちだし、思われが。私に障がいがないこと、を相手が気にするかなも思った。  
めぐみ いきなり暴れたらどうしよう。私の言った言葉が気に障ったらどうしようも思った。  
楓太 さんさん広場では、震災の影響で新宿区に避難している子どもと遊んだ。普通の子ともだろうとは思っていたけど、予想を上回る元気の良さだったのは驚いた。  
芽衣子 みんなのおうちでは、外国にルーツのある子どもたちとお話した。みんな元気で積極的。同年代だし話しやすいかった。  
栗 ボランティアさんとお話した。「どうして必要になったから手を貸す」という話を聞いた。「私はこんなにならなくてあげている」という人が多いのかな。  
取材で印象に残っていることは？  
百詠子 みんなのおうちの取材で聞いた「偏見」についてのお話。

「偏見」についてどう思う？  
英利果 触れ合う機会が少なくして知らないから出てくる食わず嫌いな感じがした。  
栗 自分が大人や親になって伝える立場になったときに減らしていきたくないかな。  
梨乃 子どもの頃の教育、大人から教えられたことの影響が大きいと思う。イメージだけじゃなくて、自分で実際に触れ合ったり、調べたりする機会を増やすといい。  
百詠子 真実を知ることが大切。そのためには、自分で情報を探し、何が真実かを考える。  
英利果 たくさん情報を集めること、実体験を聞くことが大切。兄が、旅で訪れた中東の国のことやイスラム教について教えてくれた。怖いというイメージを持っていた自分が恥ずかしくなった。  
芽衣子 経験している人の話を聞く大切さ。他の人が言わないようなことだわり、持った話をするのは経験した人だからこそ。  
栗 取材先の職員やスタッフの皆さんがすごく生き生きと楽しそうてびつくりした。福祉の仕事をしている人は、疲れている、頑張っている、イメージだった。実際に会って話を聞いてみると、子どもが好きとか、特別なことではなくて普通のこととして楽しさを感じているのに驚いた。  
記者以外の高校生の考えを知るため

英利果 福祉に関する活動をしたことがある人も「学校で」や「一人にすめられる」が多い。自分でやるのは高校生には難しいのかな。  
栗 「機会があればやりたい」という人が多いから、地域や学校で情報を増やすといいのでは？  
英利果 やってみたいことで「子どもと遊ぶ」は、自分自身も楽しめるイメージだからかな。  
汐里 障がい者や高齢者に関する活動は基礎知識が必要な気がする。気をつけなければならぬことややっていけないことなど。  
汐里 「人のためにすること」が福祉のイメージだから、人によっては面倒だと感じてしまう。  
莉紗子 自分が普段何気なくやってることが人の役にたっていたりするけど、それが「福祉」と結びつかない。「福祉」の定義があやふやなのかな。  
英利果 私たちが調べて「こんな活動がありますよ」と、学校にチラシを貼ったり、ホームルームで発表するのはどう？自分で調べるのは面倒と考える人が多いし、1人ではじめるには勇気がいる。  
理恵子 興味関心がない人には、どう伝えたらいいのかなと考えていたけど、自分の友達が教えてくれたら大きな一歩になるね。  
この広報誌を読んで1人でも多くの人が自分の「きっかけ」を見つけてくれるといいですね。

- 平成24年度Youth記者** (あいうえお順)
- ・大根田 梨乃 (順天高等学校1年)
  - ・小野 莉紗子 (富士見高校2年)
  - ・片山 芽衣子 (東京女学院1年)
  - ・加藤 美波 (東京女学院1年)
  - ・栗林 菜 (日本大学豊山高等学校3年)
  - ・小松 汐里 (学習院女子高等科3年)
  - ・関根 颯汰 (早稲田大学付属早稲田実業学校高等部2年)
  - ・高木 理恵子 (大妻高校2年)
  - ・東野 春花 (工芸高校1年)
  - ・富樫 琴絵 (大妻高校2年)
  - ・野田 百詠子 (桜蔭高等学校3年)
  - ・橋場 英利果 (日本大学豊山高等学校1年)
  - ・渡利 めぐみ (順天高等学校1年)
- [サポートスタッフ (大学生)]  
大矢かつみ、神戸都人 [スタッフ]  
田丸精彦、後藤務 (VCAS)、新部聖子 (スープの会)、森直美、土屋ゆかり (東社協)

- 平成25年度のYouth記者を募集します**
- 任期 平成25年4月～平成26年3月
  - 定員 3～5名
  - 募集条件
    - ①高校生等、20歳までの若者
    - ②本活動に関心があり、年間を通してミーティング、取材等の活動に参加できること
    - ③保護者の同意が得られること
    - ④高校生の場合、学校の同意が得られること
  - 申込方法 所定の申込書に記入の上、郵送
  - 選考方法 定員を超える応募があった場合は、年齢・男女のバランス、志望動機等を考慮して書類選考を行います  
詳細はホームページをご覧ください
  - 募集期間 平成25年2月8日(金)～4月19日(金)消印有効
  - 問合せ先 東京都社会福祉協議会  
TEL: 03-3268-7171 FAX: 03-3268-7433  
E-mail: kouhou@tcsw.tvac.or.jp  
http://www.tcsw.tvac.or.jp/

プリント●共立速記印刷株式会社

ライター  
**点灯者**  
～13人のユース記者～

福祉広報 特別号

発行人=金森 順子  
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
東京都新宿区神楽河岸 1-1  
☎ 03-3268-7171  
http://www.tcsw.tvac.or.jp/

特別号についても  
ご意見お待ちしております!